

2017/2/27

(日々雑感 37)



最近、都会に出向いたときに、街を歩いていて、近頃の若い女性は、おとなしい男の人と結婚するケースが多いのかな？と思いました。

見ていると、女の人が先に立ってドンドン歩いて行くのに男の人が付き従っている。女の人があれこれ指示を出して、男の人が聞きしたがっている感じなのです。男の人があかちゃんを抱いていて歩く前を、女の人がスマホを見ながらとっところ歩き、後ろから男の人が何か話しかけても、聞こえているんだかいらないんだか、どことなく上の空状態。

恐らくそれまでの世代のメンツと沽券を大事にする訳の分からない男達を見て、理解不能とうんざりし、それならばメンツにも沽券にもあまり重きを置きそうもない存在の、了解可能で、ときめきや嫉妬などの自分が制御不能になるような感情を起こさせたりもせず、却ってコントロールしやすいそうな、おとなしい「彼」

それを「遊び友達化」している仲の良い母親と作戦立案、老後に至るまでの力関係の所在まで含めて、十分にも十分を重ねた密議相談した上で、いざ作戦開始。「敢えて伴侶として選んだ」のではないのかなと思ったりもしました。

「わたしのことを充分理解して家事や育児を手伝ってくれるし、優しいし」というのがインタビューの回答でした。

まあ、デフレ世代の夫婦らしく大化けしなくても良いから、不幸になるような目にだけは遇わせないないでね、くらいの「そこそこ感」とでもいうのでしょうか。身の程をよーく知っているともいいいますか。

しかし、よくよく見ていると、例えば、やんちゃそうで、わがままそうで、身勝手そうな上にワルの臭いのしそうな、どちらかという男の目からは「何じゃ、こいつ！」といえそうな輩が偶然近くに來たりすると、こっそりそこそそ盗み見をして、あろう事か無意識に髪の毛をトリミング。手櫛で梳いて(すいて)身繕いというか毛繕い。興味津々でまんざらでもなさそうなのです。旦那さんが横にいるのに。旦那さんこそ良い面の皮なのです。

取りあえず安全パイ。でも子供の手が離れたら、熟女の魅力で、ちょっとそちらをつまみ

食い、というようなあらぬストーリーがついつい浮かんでしまいます。

ぼくは女ではないので、その辺の心理的メカニズムはよく分からないのですが、観察する限り、どうも本人さえ気づいていない二面性があるようです。

朝は良妻、昼は良母、夜は娼婦が理想とすることを言った友達でしたが、役柄をやる側としては、朝昼役がかったるくてメンドイし疲れもするので、いきなり夜役指向になっちゃってるとでも言いましょうか。

なんか見ていて危うい気がします。相手に悪いのでなんとか打ち消そうとしても、ますます今が「取りあえず」であることが、それを越えて更に更々どこまで行くの？状態で、際立って来たりします。簡単に言うと何となく、そのくせ直感的に「収まりの悪さ」が感じられるのです。絆で結ばれていない、何かことが起こると、ふっと切れてしまいそうな「かりそめの儂さ（はかなさ）」も。

それ故、ぼんやりとながらも、今は若い奥さんにも若い旦那さんにも、あるいはそのお子さんにも行った先々の将来に於いて、何かイヤなことが起こる予感がひしひしと感じられたりもするのです。

こうした予感は当たって欲しくない予感です。そうならないことを願うばかりです。そうならないようにして欲しいと思います。